

令和会 福島県双葉町 視察報告書

視察日時 令和7年7月2日（水）～3日（木）

視察場所 1. 廃炉資料館・福島第一原子力発電所視察

2. 双葉町役場にて意見交換

視察者 加須市議会 23 名（内 令和会 9 名）

訪問先の概要

2025. 5. 31 現在

項目	加須市	双葉町
面積（k m ² ）	133. 30	51. 42
総人口（人）	111, 864	5, 188
男	56, 363	2, 532
女	55, 501	2, 656
世帯数	51, 661	2, 172

震災から 10 年以上経った 2022 年 1 月現在でも、災害救助法に基づき東日本大震災および福島第一原子力発電所事故による仮設住宅（みなし仮設住宅）の供与を大熊町と双葉町の 2 町のみが受けており、うち、建設型の仮設住宅（プレハブ仮設住宅）の当初の供与期間は工事完了から 2 年 3 か月間であったところ、いまだ仮設住宅から住民の退去の見通しがたたない唯一の東日本大震災被災市町村である。

また、多くの町民は医療費の一部負担金（療養の給付）や介護給付費、介護保険料、後期高齢者医療保険料、国民年金保険料の免除、住民税、国民健康保険税の減免、賃貸住宅の家賃のほぼ全額の補助、高速道路料金の一部区間の無料化など様々な支援を国や福島県などから受けている状態である。

2020 年（令和 2 年）の住民意向調査では、回答者の 62. 1%が双葉町に戻らないと決めていると回答した。理由の一番の多くは、避難先で自宅を購入・建築し将来も継続的に居住する予定のためである。一方で、戻りたいと考えていると回答したのは 10. 8%にすぎない。

広報ふたば（災害版）最新号から・・・

伊澤町長のメッセージの中に「騎西藤まつり」の情報がありました。

町民の皆さまへ

2 町民の皆さまへ 6 月に入り、服装も軽やかになり、初夏を感じます。4 月 19 日、埼玉県加須市の騎西藤まつりに出席しました。これまで 5 月の連休に開催されていましたが、藤の花の開花時期に合わせ、今年は 4 月に変更されました。あいにく例年より開花が遅れ、見頃には少し早い開催となりましたが、避難先から多くの町民の皆さまにお集まりいただき、開会式後のイベントの先陣を切って「相馬流れ山踊り」と「ふたば音頭」を披露していただきました。

4月23日、行政区長会を開催しました。日ごろから行政と町民の皆さまとの連絡調整・連携はもとより、町の復旧・復興のためにご協力いただいておりますことに感謝申しあげ、今年度の事業について説明するとともに、意見交換を行いました。

4月24日、双葉町芸術文化団体連絡協議会の総会が行われました。震災後の困難な状況でも、継続して精力的に活動されてきた会員の皆さまによる芸術文化に対する熱意に、改めて敬意と感謝を申し上げます。

今年度から町内で新たにスタートする生涯学習講座の講師にご協力いただくなど、活気あるまちづくりに積極的に貢献いただいております。今後とも町の復興に邁進いただければと思います。

JR双葉駅周辺に目を向けますと、役場庁舎北側に建設中の公設民営のスーパーマーケットも足場が外れ、全体像が見えてきました。今夏のオープンに向け、準備を加速してまいります。また、復興シンボル軸（県道井手長塚線・長塚請戸浪江線）も今夏の全線開通が予定されており、町へのアクセスが向上することで、町の復興に重要な役割を果たす道路になると期待しています。梅雨入りの報道が気にかかる毎日です。気温が高い日もございますので、町民の皆さまにはお身体に気を付けてお過ごしくださいますようお願いいたします。

双葉町長 伊澤 史朗

視察目的

除染された福島第一原子力発電所構内視察することで、事故発生時の状況から現在までの過程を感じることで、原子力発電所の廃炉作業の困難さと今後の原子力行政についてを考える為に視察を行う。

併せて、双葉町と結ばれた姉妹都市の関係の充実を図る。

東京電力廃炉資料館の概要



学びのポイント

- ① 原発事故の概要、廃炉の進捗状況
- ② 東京電力の視点から見た震災・原発事故

「廃炉現場の姿」ゾーンでは、福島第一原子力発電所構内の状況や、最先端の技術による燃料取り出しの作業状況などが紹介された。

汚染水・処理水対策についても説明があり、ALPS 処理水の安全性について言及されている。訪れた人の「知りたい」により詳しく応えるために、ガイドによる案内も行われていた。

世界最悪ともいえる原子力事故から、何を学ぶのかが問われている。

7月2日(水)

時間	概 要	内容																									
13：00～ 14:00	廃炉資料館案内・ 概要説明	廃炉資料館 2F 会議室にて、これからの行程・注意事項等について説明あり。  資料として、「福島第一・第二原子力発電所の概要」「1～4号機の状況」「汚染水と原子炉循環冷却の概念図」「汚染水対策の3つの基本方針」「安全確保のための設備の全体像（風評被害を最小化）」等の資料配布あり 双葉町の復興状況及び廃炉資料館として展示されている当時の状況から原子力発電所事故の悲惨さが体感できた。 <table><thead><tr><th>項目</th><th>1号機</th><th>2号機</th><th>3号機</th><th>4号機</th></tr></thead><tbody><tr><td>炉心温度</td><td>約200℃</td><td>約200℃</td><td>約200℃</td><td>約200℃</td></tr><tr><td>炉心圧力</td><td>約1.5MPa</td><td>約1.5MPa</td><td>約1.5MPa</td><td>約1.5MPa</td></tr><tr><td>炉心水位</td><td>約1.5m</td><td>約1.5m</td><td>約1.5m</td><td>約1.5m</td></tr><tr><td>炉心圧力</td><td>約1.5MPa</td><td>約1.5MPa</td><td>約1.5MPa</td><td>約1.5MPa</td></tr></tbody></table>   	項目	1号機	2号機	3号機	4号機	炉心温度	約200℃	約200℃	約200℃	約200℃	炉心圧力	約1.5MPa	約1.5MPa	約1.5MPa	約1.5MPa	炉心水位	約1.5m	約1.5m	約1.5m	約1.5m	炉心圧力	約1.5MPa	約1.5MPa	約1.5MPa	約1.5MPa
項目	1号機	2号機	3号機	4号機																							
炉心温度	約200℃	約200℃	約200℃	約200℃																							
炉心圧力	約1.5MPa	約1.5MPa	約1.5MPa	約1.5MPa																							
炉心水位	約1.5m	約1.5m	約1.5m	約1.5m																							
炉心圧力	約1.5MPa	約1.5MPa	約1.5MPa	約1.5MPa																							

14:45～ 15:45	福島第一原子力 発電所構内視察	東電の専用バスで、福島第一原子力発電所構内へ専用の防護服に着替えることなく、長袖、長ズボン、靴下必須で入構証・線量計が入るベスト着用し構内へ構内用バスに線量計があり、「乗り初めの位置では、$1.0\mu\text{Sv}$」「原子炉建屋近くでは、$23\mu\text{Sv}$」線量としては、まったく問題ない値だが、原子炉に近くなると高くなる緊張感があった。
16:25～ 16:45	質疑応答	質問① 震災前と震災後で働いている人の人数に違いはありますか 回答① 詳しい数字はわかりませんが、震災前は3,000～5,000人が働いていました。震災後も同様の方に働いていただいていると思われます。8割の方が福島県民です。 質問② 免震重要棟が2010年7月に完成したとのことですが、完成が遅れていたら震災にどのような影響が出たと考えられますか 回答② 詳細は分かりません。しかし、敷地内で指揮ができなくなることを考えると悪影響しか考えられません。 質問③ ALPS処理水の放出は、どのような予定で放出されていくのですか。 回答③ 廃炉作業と同様、30～40年の期間をかけて、7回/年を予定しています。トリチウムの半減期が12.3年であることも含めて検討します。 質問④ 震災時「原子炉内のベント」が話題となりましたが、実情はどうでしたか 回答④ 1号機と3号機は水蒸気爆発しました。 2号機は、ベントが失敗して、1号機の水素爆発で壁面が破損して「直接放射能」が放出されてしまいました。 放出量は2号機からが最大です。 質問⑤ 「デブリ」の排出計画を教えてください 回答⑤ まだ、1g程度の排出が始まったばかりです。 30～40年かけて検討していく必要があります。

所 感

13 時 00 分から 16 時 45 分まで福島第一原子力発電所建屋内視察を福島第一原子力発電所担当者の案内で、建屋内を視察・説明・意見交換を行った。

除染された建屋内は、不安を感じることもない明るい室内で、多くの所員の方が働かれていた。

しかし、建屋外には、多くの貯水タンクが一部の隙間もなく置かれ、処理水の放出が行われているとはいっても、まだまだこの作業は続くと感じられた。

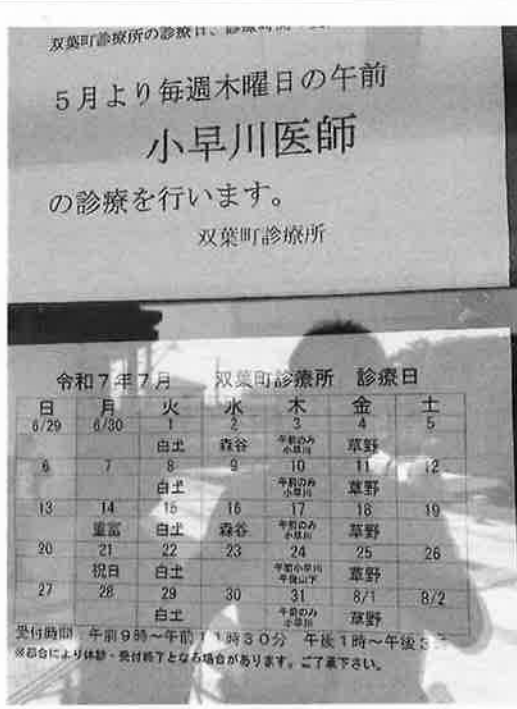
7 月 3 日（木） 8：45～11：30 双葉町議会にて打ち合わせを行う

双葉町伊澤史朗町長、平岩副町長、森副町長、岩本久人議長及び議会事務局等の出席をいただき、「東日本大震災・原発事故と双葉町の復興状況について」の題で、伊澤町長から、説明をいただく。



主な質疑事項

NO	質問	回答
1	双葉町に帰還された町民の人数は	人口は、7,140 人（H23. 3. 11 当時） 180 人の帰還者うち 100 人は双葉町民ではなかった方々です。
2	小学校・中学校の開校の状況は	令和 10 年を目標として進めています。 認定こども園、義務教育学校も選択肢として進めています。 「英語教育」は特に進めようと考えています。震災前から教育してくれている A L T 2 名が心強いです。

NO	質問	回答
6	診療所がありました、運用はどのようにされているのですか。	これも「公設民営」です。 4 人の医師の方が診療日を決めて運営されています。
	 	

所感

関口孝夫議長

まさに双葉町の「明と暗」を直視することができた貴重な体験でした。

帰宅困難地域は、15年前から時間が止まってしまったようですが、しかしながら、その中でも、海よりは、50haの産業団地となり、20社の創業も始まっていました。まさに今、「新しいまち」に生まれ変わろうとするパワーも感じました。ファイト双葉町！

原田悟

町を復興して行こうとする場合、「トップ」の求心力・馬力・積極性が必要なのだと、伊澤町長の言葉・行動に教えられました。

加須駅南口の開発、北口の再開発には、「トップ」の積極性が改めて必要なのだと感じさせられました。

新井好一

人類史に残る大事故ですが、発生以来長い年月が経っています。今日の社会エネルギー源として、必要悪とはいえ安全性は、最優先として論議され、対策が必要です。

今後のまちづくりは、双葉町の除染場所・作業の拡大と廃炉作業の進展に大きく依存されますが、帰還ゾーンの拡大が公共インフラの整備と一緒に進めばと思います。気の遠くなる作業となりますが、一步一步確実に進んでほしいです。

今後の農業の再生も重要です。土地の所有者関係もありますが農業法人などを活用し、ゾーンニングをしながら頑張っていく以外ないのではないのでしょうか。

私たちとしては、何年かかっても応援・支援し、再生・復興してもらいたいと思っています。がんばってください。

竹内正雄

福島第一原子力発電所の視察

福島第一原子力発電所の事故から約 14 年が経過しました。現在も全面的な廃炉に向けて、危険な環境下で 1 日当たり約 4,100 人の作業員が従事し、年間 2,000 億円、総額では 40 年間で 8 兆円もの費用が見込まれます。その膨大な経費は、原子力事故の重大さを改めて痛感させられました。

また、事故当時に発生した放射能物質が気流に乗って遠く香川県まで到達し、汚染をもたらしたとの説明を受け、原発がもたらすリスクの大きさを改めて認識しました。

現在、日本国内で稼働中の原子力発電所は 33 基ありますが、政府は今後新しい原発の建設は認めない方針です。今後もこの姿勢を堅持し、再生可能エネルギーへの移行を一層推進して欲しいと感じました。

双葉町の視察

双葉町は、人口 7,140 人、2,611 世帯、面積 51.42 km²の町で令和 4 年 8 月 30 日に特定復興再生拠点区域において避難指示が一部解除されました。（解除区域は町全体の約 11%）

しかし、現在も町の約 85%が帰還困難地域に指定されており、農地・山林・住宅地などの多くが手つかずの状態である現状を視察し、放射能の脅威を改めて実感しました。

国や県の支援の下、双葉駅や新庁舎、工業団地、産業交流センター、さらに再生賃貸住宅などの整備が進められています。一日も早く、帰還を希望する約 2,000 人（町民の約 3 割）の方々が、再び故郷に戻れるよう、心より応援したいと思います。

また、現在も加須市に避難している約 400 人の方々の支援について、加須市民のひとりとして、その重要性を強く感じました。

中島正和

現在の東京電力福島第一原子力発電所を見てきました。

14 年前に水素爆発を起こしたときのイメージで時間が止まっていたましたが、着実に廃炉に向けて歩みを進めているのがわかりました。ただ道半ば、施設内の 95%は、私服で行動することもわかりましたが、900 トン近くの燃料デブリの取り出しも始まっていません。地域住民への賠償も進んでいることではしょうが、地域・街は 14 年前の当時のままでした。故郷を後にして避難先が終の住処と思う方が大勢いらっしゃり、帰りたいと願う住民も僅かな方々という現実。

地元産業にも貢献しながら廃炉の歩みを一步一步着実に進めていただきたいと思います。

赤坂和洋

震災時に発電所内で働いていた方が、約 4,000 人と教えていただきました。現在も、約 4,000～5,000 人の方が雇用されているとも教えていただきました。原発の事故は恐ろしいですが、地域にとっては、「働く場所」でもあると考えられるため、安全性を十分に確保して、町の為にも、更なる雇用拡大をお願いします。

内田昇

私は、震災直後に騎西高校に避難された町民のグループの皆さんと、南相馬方面への研修に行きました。当時、双葉町は全域が立ち入り禁止区域であった為、訪問が許された地域のみの見学でしたが、震災の爪痕を目の当たりにして、衝撃を受けた事を思い出します。

そして今回は原発の廃炉の状況や、その進行、問題点についての説明を頂きながらの見学で、その困難な内容について改めて認識する事になり、大きな衝撃を受けました。そして街の復興への取り組みが、如何に根気のいる仕事なのかについても、想像以上の内容であり、対応に当たられている職員の皆さんのご苦勞も感じ取る事が出来、研修の成果を得る事が出ました。

改めて、伊澤町長はじめ職員の皆さんの丁寧な対応に感謝を申し上げ、レポートと致します。

山本 仁美

双葉町 視察を通して思うこと

最初に、双葉町役場にて震災から 10 年以上経った現在の復興状況を町長より説明してもらいました。

双葉駅西口には復興公営住宅・再生賃貸住宅（86 戸）が整備され令和 6 年 6 月に完成した所を見学してきました。長屋風の造りになっており、共有スペースの軒下空間があるとても住みやすそうな環境だと思いました。所得に応じての家賃というのも魅力の一つでした。

また、学校教育施設の話では令和 10 年 4 月開校予定の義務教育学校を目指していることや、子ども園、小中を合わせた教育を実践していこうとしていること、他県他市にはあまりない英語教育を重点にしていこうと考えていることなど、地域特有の考えが感じられました。これらの取り組みには 2 人の ALT の先生が力を貸してくれていることもわかりました。双葉町に来ると英語教育が受けられるという特徴を生かし 教育留学も考えているとのことでした。前へ前へと将来を見据えての取り組みがとてもよくわかりました。

小坂裕

13 年間放置された田畑を見ると、農業に従事する者として、見るできませんでした。田んぼにふさわしくない大きな木が生えている風景は、悲しくなりました。

双葉駅周辺の復興が皆さんの努力によって進められていることに感謝いたします。しかし、まだまだ農地の復帰、農業後継者問題等農業関連の復興が遅れているように感じられます。おいしいお米、野菜を地元でつくって、地元で消費する構造を早く作って欲しいと思いました。